

# 保護者インタビュー 2020

グノーブルで前向きなエネルギーをいただいて、  
帰ってきた日はいつも元気いっぱいでした。

毎年、受験を終えた保護者の皆さまにお集まりいただいてきた“保護者座談会”ですが、今年は新型コロナウイルス感染症の状況を考慮して、7名に“電話インタビュー”をさせていただきました。

「お子さんにとってグノーブルはどんな塾だったのか」、「グノーブルに通うお子さんをお母さまは

どのように見守っていらっしゃったか」など、<sup>おかだ あつし</sup>岡田 淳志さん（慶應義塾大医・駒場東邦）、<sup>かつや</sup>勝屋

<sup>みれい</sup>美怜さん（東大理Ⅰ・桜蔭）、<sup>こいけ たいち</sup>小池 太一さん（東大文Ⅰ・駒場東邦）、<sup>たなか みう</sup>田中 美羽さん（京都大医・筑

波大学附属）、<sup>なかむら かい</sup>中村 介さん（東大理Ⅰ・都立日比谷）、<sup>まき だいち</sup>真木 大地さん（東京医科歯科大医・浅野）、

<sup>わたなべ ゆうき</sup>渡邊 侑貴さん（東大理Ⅲ・世田谷学園）のお母さま方に伺いました。

「いつもきめ細かく見ていただけた」と本当に感謝。

<sup>かつや ちか</sup>勝屋 千佳さま 東大理Ⅰ（桜蔭）勝屋 美怜さんのお母さま

勝屋 美怜さん



中2から最後まで楽しそうに通っていました。授業では、いつも先生が上手に導いてくださったのでしょうか。塾から帰ると「こんなことがあったよ!」と楽しそうに話してくれました。どの先生も名前をすぐに覚えてくださることに驚いていました。先生が一方的に進めて、それを黙って生徒が聞くという授業ではなく、先生と生徒がやりとりをしながら進むので、“生徒が主体的に関わっていける”スタイルだと娘はとても気に入っていました。いつもきめ細かく見てくださったことには本当に感謝しています。受験の追い込み時期には、娘は頻繁に添削のお願いをしていましたが、それが夜遅い時間でもすぐに返信してくださるのには本当に頭が下がる思いでした。

娘は、特別に英語ができるわけではなく、苦勞しながらコツコツ積み上げてゆくタイプでしたが、グノのご指導のおかげで希望する大学に入ることができました。また、受験のためのテクニックだけではなく、英語を通していろいろな話題に触れることができたため、ずいぶん知的な好奇心を刺激されることもあったようです。グノでは、人生において有意義なものも多く学ばせていただいたように思います。

## 6年間楽しくて、 “やらされている感”は一度もありませんでした。

おかだ まき  
岡田 真紀さま 慶應義塾大医（駒場東邦）岡田 淳志さんのお母さま

岡田 淳志さん



中学・高校と6年間グノーブルにお世話になりました。本当に良い選択だったと思っています。グノーブルは宿題も適量で負担が少なく、先生方の上手な導きもあって、息子を見ていても“やらされている感”をにじませて勉強に向かう印象を受けたことは一度もありません。

ただ、心配がなかったわけではありません。グノーブルの英語指導には独創的な面があって、例えば単語帳の暗記がありません。世の中にはたくさんの単語帳が出版されていてどの受験生も暗記を頑張っているのに「単語帳は必要ない」というのは私も驚かされました（笑）。でも本人が意欲的に通っているわけですから、そこを信じて余計な口出しはしませんでした。

英文を読んでいく中でその中に使われている英単語を蓄積してゆくというグノーブルのやり方で、本人は英語を好きな科目として成績も伸ばしていましたし、塾に対する不平や不満を漏らすことなく最後まで楽しく通い続けていましたから、グノーブルを選んだのは正解でした。先生や職員の方々がしっかりと寄り添ってくださり、息子の性格もよく把握されて、上手に導いてくださったのだらうと感謝しております。

## さらに学び続ける「土台と意欲」を授けていただきました。

こいけ きょうこ  
小池 京子さま 東大文I（駒場東邦）小池 太一さんのお母さま

小池 太一さん



そもそも中1の時にグノーブルに入塾したきっかけは数学で、その時に「数学でお世話になるなら一緒に」という感じで、英語も受講させていただきました。息子は英語に苦手意識があり、最初のうちは英語に四苦八苦していました。

ところが中学1年の2学期頃からみるみる力がついてきて、大学受験を迎える時には得意科目になっていました。「苦手だった英語を克服して、大学受験の得点源にできた。」この点がグノーブルに通って息子が最も大きく変わったところでしょうね。プロの先生の安心感はグノーブルの大きなアドバンテージでした。

それに加えて、私は何度か保護者会に参加させていただく機会がありましたが、どの先生もご自分の受け持つ科目に誇りを持って探求し続けていらっしゃる点が素晴らしいと思いました。だからこそ、その科目の面白さや奥深さといったことを子どもたちに伝えることができ、知的好奇心を刺激するような指導をしてくださったのだと思います。いわゆる受験を突破して合格するためのテクニックを伝えるのではなく、大学に入ってからさらに学び続ける「土台と意欲」も授けてくださったと思います。

## 6年間のグノ。学ぶことの楽しさを教えてくださった。

たなか ようこ  
田中 容子さま 京都大医（筑波大学附属）田中 美羽さんのお母さま

田中 美羽さん



本人はずっと理系志向でしたが、理数科目が飛びぬけた成績であるわけではなく、私は「文系のほうが向いているんじゃないかな？」と感じていました。ところが、グノーブルの先生方は、本人の「医学部に行きたい！」という強い気持ちを最大限に尊重してくださり、それにふさわしい力を伸ばしてくださいました。

易きに流れるのではなく、努力をして自分の目標に到達すること。この成功体験は今後の娘の人生に大きな影響を与えたいと思います。子どものモチベーションを下げることなく、やる気を持たせていただいて、それを持続させてくださったところ。これをやらないとこの学校は無理だよといった否定的な言葉がなかったところ。本当なら必ずしも楽しくはないはずの受験勉強に楽しみを見出させてくださり乗り切る力を授けてくださったところ。また、そうした高い指導力を持つ先生方が大勢いらしたところ。親の目から見て、「6年間グノーブルに託して良かった」と思うところはいろいろあります。

でも、究極的に申し上げるなら、「学ぶことの楽しさ」を教えてくださったことに尽きるように思います。その積み重ねが、結果的に大学受験をクリアする力にもなっていたのだと思います。

## いつも「楽しい!」と言って帰宅していました。

なかむら なおこ  
中村 直子さま 東大理Ⅰ（都立日比谷）中村 介さんのお母さま

中村 介さん



息子は英語が好きだったので、好きなものを伸ばせるような塾がいいと私は思っていました。英語といえばグノーブルというイメージもありましたが、実際にグノーブルに通うようになってからは、いつも「楽しい!」と言って帰宅していたので、相合っていたんだと思います。

どれだけ夜遅くても、グノーブルから帰ってきた日はバワフルで元気いっぱいなんです。「どうだった?」と尋ねると、先生とのやりとりや塾での出来事を本当に元気よく話してくれまして「コミュニケーションがしっかりとれているんだな」とつくづく感じましたし、先生から前向きなエネルギーを頂いていることもよくわかりました。

初回の授業に参加して帰宅した時の姿は印象的でした。息子が「先生がすぐに名前を覚えてくれた!」と言ったんです。雑誌広告でも卒業生の方が同じことをお話しされていましたが「生徒をきちんと見てくださるというのは本当なんだな」と再認識しました。先生が生徒一人ひとりに向き合ってください、楽しい授業を熱心してくださるといふところに子どもたちは惹きつけられ、それがやる気にもつながり、自信にもなっていたんだらうと思います。

## 学校と反対方向への通塾。捨てがたい魅力で決めました。

まき かなえ  
真木 一苗さま 東京医科歯科大医（浅野）真木 大地さんのお母さま

真木 大地さん



これから中学生生活がスタートするという時期に、塾選びは慎重に行いました。塾に入って勉強をするにしても宿題が多すぎて学校生活との両立が難しくなるようでは本末転倒です。いろいろな塾を検討しましたが、一番伸び伸びと勉強できそうな塾がグノーブルでした。スタートダッシュ講座\*の説明会で拝見した模擬授業が魅力的で、指導方針に十分に納得して入塾を決めました。

ただ迷いもあったんです。学校も住まいも神奈川ですので、学校と反対方向に通塾することになるのは少し大変かなど。しかし、説明会で拝見した模擬授業は息子のことを考えると捨てがたい魅力がありましたし、先生との距離の近さもグノーブルの魅力でした。結局息子は6年間楽しくグノーブルの英語に通い、中2からは数学も受講しましたが、一度も他塾に変わりたいという気にもならなかったようです。

実は、私や息子の話を聞いていた長女も「私も通いたい」と言い出しまして、中2の夏休みから大学受験まで、ずっとお世話になりました。娘も受験で悩んだ時に先生に相談に乗っていただいて壁を乗り越えた経験があります。親に話せないことでもグノーブルの先生には話せていたようです。

\*新中1対象の講座(2~3月に開講)

## 「絶対に休まない。」グノをすごく楽しんでいました。

わたなべ おうみ  
渡邊 央美さま 東大理Ⅲ（世田谷学園）渡邊 侑貴さんのお母さま

渡邊 侑貴さん



中2の冬に息子が「塾に行きたい」と言い出しまして、インターネットで実績のある塾をピックアップしました。その上で、宿題が多くて学校生活の足かせになりそうな塾は省き、極力少人数制の塾を、指導方針を基準に絞り込んでいった結果、グノーブルに行き着いた次第です。

家で塾の話をするのはあまりありませんでしたが、私が見ている「ほう」と感心したのは、グノーブルで準備されている英語の音声教材に熱心に取り組んでいたことです。人から強制されてやるような子ではないので、そのあたりは、自分で納得して主体的に取り組んでいたんだと思います。

入塾後に保護者会で先生のお話を伺う機会があったのですが、その時に、どの先生も「侑貴くん」と名前を覚えてくださっていて、1対1の対話ができていることを確認して、家族のような温かさを感じました。

塾からの帰りが遅くなることがあると、疲れるんじゃないかと心配になり「塾に行くのをもう少しセーブしたら?」と聞いたことがあります。すると息子は「グノは絶対に休まない」と言い張ったくらいです。本人はグノーブルをすごく楽しんでたんだと思います。グノーブルの先生方には本当に感謝しています。

# 東京大学 文系 Part 1

あかさか けいすけ  
赤坂 恵祐さん  
(文Ⅲ・駒場東邦)

ささはら りく  
笹原 陸さん  
(文Ⅱ・麻布)

ひろた ゆういちろう  
廣田 雄一郎さん  
(文Ⅰ・駒場東邦)

やすだ ゆうた  
保田 優太さん  
(文Ⅰ・早稲田)



周りの生徒のレベルの高さが良い刺激となりました。みんな積極的だし、すごい人がいっぱいいて、「こんなすごい人がいるんだ」と思うことが何度もありました。グノに通ったのがきっかけになって、レベルの高い友達と知り合えたのも、人生における財産です。

保田 優太さん (文Ⅰ・早稲田)

## 東大志望の動機

**廣田**：高校生になってから、東大のキャンパスを訪問して教授の講義を受ける機会がありました。その時、講義のレベルの高さに驚くと同時に、新しい考え方にも触れられて、「こういう環境で勉強したい」と思い、志望が固まりました。

## 入塾のきっかけ

**保田**：「君たち、奴隷貿易って知ってる？」。最初の授業の解説で、先生がアフリカの地図を描きながらこう言いました。受験の枠に収まっていない英語の授業は初めて受けました。「こんな授業があるのか？ これ本当に英語の塾なの？」と目から鱗でした。ただ英語のことを教えてもらえるだけでなく、英文の周辺知識や背景知識を絡めて話してもらえるのがうれしくて、「絶対この塾に入ろう。グノしかない」と思って入塾テストを受けました。

## グノーブルの授業

**廣田**：単語帳をワーツと覚えるよりも、グノのようにあらかじめ本質を理解しておく、やるべきことの量が少なくすむし、ニュアンスもより伝わって英文の内容もより深く理解しようとする姿勢が身につきます。暗記や問題集をこなす量は少ないのに、合格実績も素晴らしいグノの良さは、学校のテストや模試でも実感していて、「この塾でやっていることに間違いはないんだな」と思っていました。

**赤坂**：好奇心が芽生えていくような仕組みがグノにはあったと思います。学校の合格体験記に「高3の夏から過去問に取り組もう」というアドバイスがあって、「俺はまだやったことないぞ」と思いましたが、初めて過去問を解いたのは2月に入ってからで、しかも3年分しか解きませんでした。グノの勉強をやっていたら底力がつくのだと思います。

## グノーブルの先生

**保田**：グノの先生はどの先生もパワフルで、全身を使って身振り手振りを交えながら教えてくださるので、「伝えよう」という熱意をいつも感じていました。

**笹原**：授業が単なる作業になっていなくて、「教えるんだ」という意志がいつも、グノの先生からは伝わってきました。グノにいれば、英語が好きなのはいつそう英語が好きになるし、苦手な人でも英語を好きになるきっかけを得られます。

**赤坂**：グノの先生は「伝えたい」という思いが強いです。英文を解説して終わりではなく、英文の周辺知識の話も多く、教養の深さにも、それをパワフルに語るエネルギーにも感動していました。

**廣田**：科目としての英語を学べるだけでなく、英語を通していろんな考え方や知識に触れられて、世界がどんどん広がっていくのがグノの英語でした。先生方の元気で教養の深さに魅了されて、心の底から尊敬できました。

## 後輩へのアドバイス

**保田**：受験が終わったあともワクワクできる体験がグノにはあります。そのためにも自分が好きではない学問への扉をオープンにして、グノの授業を楽しんでもらえればと思います。

**赤坂**：東大合格の目標を決めたら、自分に何が足りないかを分析しましょう。そして、「文法が弱い」「速読力がない」などと判明したら、グノのテキストに戻って弱い部分をとことん突き詰めてください。困ったことがあったらすぐに先生に相談しにいけば、英語力を確実に上げることができると思います。

**笹原**：クラスみんなの「やるぞ！」という感じに押されずに、良い刺激にするといいです。

# 東京大学 文系 Part 2

あべ ひろゆき  
阿部 央幸さん  
(文Ⅲ・麻布)

こじま たつや  
小島 達矢さん  
(文Ⅲ・芝)

はぎわら けんすけ  
萩原 健介さん  
(文Ⅲ・芝)

もとむら ひかる  
本村 日香留さん  
(文Ⅲ・都立小石川中等教育)



グノの先生はどの先生も、生徒一人ひとりに親身に向き合ってください、授業はどんな時も真剣そのもので、そんな先生方の姿勢がいつも励みになりました。「グノの先生についていく」という気持ちをいつも持っていました。

本村 日香留さん (文Ⅲ・都立小石川中等教育)

## 東大志望の動機

**小島:** 高1の文理選択で、当時は法学部志望だったので文系を選びました。でも、高2の時に都市工学を学びたくなり、「理転したい」という思いが募りました。東大には3年進級時に学部を決められる進振りがあるので、そこで理転することを目標に、東大を目指すことにしました。

## 入塾のきっかけ

**萩原:** 高2の秋から通い始めました。それまでは1対1の個別指導塾に通っていましたが、英語が伸び悩んでいました。グノに通っている友達は英語の成績が良かったので、それに感化されて入塾を決めました。

## グノーブルの授業

**本村:** 私がグノの英語で印象に残っているのは、語源の学習をちゃんとやってくれたところです。語源を学習したおかげで、未知の単語と出合っても「あの時のあれと仲間だから、こういう意味かな？」と推測できるようになりました。このやり方で単語が定着していった、英語の文章を読むのが楽しくなり、やりがいが出てきました。

**小島:** 用意される英文プリントの中には、日本語に訳せることは訳せるけれど、訳した日本語を読んでみてもよくわからないものが時々ありました。僕の場合、哲学や自然科学がテーマだとおさざでした。グノの授業の醍醐味はその先です。先生が背景まで含めて詳しく説明してくださったので、深く理解できましたし、筆者の表情や思いまでも想像することができて、本当に面白く、幅広く知識が身につきました。

僕はものすごく数学ができませんでした。文系なのでI A II Bですが、それでも使うツールが多くて、問題を解く上でどの解法を選んだらいいのかがわからなかったんです。でも、グノでは、「どの道具を使うか？」や「どういうふう知識を組み合わせるのか？」について、必然的な動機があることを、体系化された板書で教えてくださいました。高3で東大国語をとりました。先生が明るくて、先生の話す身近なエピソードを聞いているうちに知識がついていく授業でした。楽しく話を聞いていると、思わぬところで当てられるので、受け身になることもなく、楽しさと緊張感が混ざっていて素晴らしかったです。

**阿部:** 英文解釈の時間がいつも面白かったです。タイムリーな話題だったり、思わず引き込まれる内容だったり、難解すぎて謎だった英文が先生の解説でバツとわかる経験ができたり、とにかく僕たちが飽きない英文が毎回用意されていました。

## グノーブルの先生

**阿部:** 僕たちは1週間のうち1回受けるだけですが、先生方は授業を週に何回もやっていて、全力でずっと喋っているのに、全員元気なのが単純にすごいと思っていました。先生方は、何より「教えたい」という熱意を強く持っていらっしゃると思います。

## 後輩へのアドバイス

**萩原:** グノの先生の言うことも教え方も間違いはありません。グノを信じてついていけば大丈夫です。そして、こちらも真剣に取り組めば必ず結果がついてきます。

**本村:** グノの先生は本当に真剣に熱意を持って生徒に向き合ってくださいるので、それをちゃんと受け止めて授業や課題に取り組んでください。それから、グノの先生方は受験のプロで、親身に相談に乗ってくださいます。どんな相談でも、グノーブルを活用してほしいと思います。



# 東京大学 理系 Part 1

かつや みれい  
勝屋 美怜さん  
(理I・桜蔭)

T. K. さん  
(理I・駒場東邦)

なかむら かい  
中村 介さん  
(理I・都立日比谷)

みたち ひろや  
三田地 宏哉さん  
(理I・駒場東邦)



入塾したのは中2の2学期です。その頃、学校の英語の勉強に不安を感じていました。英文法の仕組みも理解できないまま、ただ教科書を覚えているだけの印象だったんです。グノは未修者の私にわかりやすく、楽しく思えたのが決め手になり入塾しました。

勝屋 美怜さん (理I・桜蔭)

## 東大志望の動機

**三田地**：僕は高校1年の夏まで海外に留学していました。でも、留学中は目的だった英語も含めて全然勉強していなくて、日本に帰ってきてから他の人とのレベルが開いていました。勉強していく中で、自分は周りに影響されやすいことに気づき、「良い環境で勉強できたほうがいい」と感じるようになって、「学力レベルが高い東大で勉強したい」と思ったことも東大志望の理由です。

## 入塾のきっかけ

**勝屋**：入塾したのは中2の2学期です。その頃、学校の英語の勉強に不安を感じていました。英文法の仕組みも理解できないまま、ただ教科書を覚えているだけの印象だったんです。グノに通っていた姉が「楽しい」と言っていて、私もグノが気になりました。  
**中村**：グノーブルから東大に合格した人たちが「英語が面白い」「数学も面白い」と書いていて、それで、高1の夏に英語と数学の講習をとりました。「ここが合っている！」と直感的に思えて入塾を決めました。

## グノーブルの授業

**勝屋**：英語を英語のままどんどん読めるのが楽しかったです。いつも「前から読むように」と言われて、日本語に訳して読むのではなく、意味のまとまりで読めるようになりました。  
**T**：市販の単語帳を覚えるのが勉強だと思っていた頃は、似ている形の単語、グノ流に言えば「同じ顔をしている単語」も別々に覚えていました。でも、グノの解説を一回聞くと「この部分がこうなっていて、接頭辞が違うだけだからこう意味が違うんだ」とわかって、単語を覚えるのも、未知の単語の意味を推測するのも楽になりました。  
**中村**：僕にとってグノの数学はカルチャーショックでした。真剣に取り組むきっかけになった言葉は、先生が何度もおっしゃっていた「思考体系を確立しなさい」「適当にやる見切り発車は厳禁で、すべての行動には目的が伴う」というものです。印象的なフレーズでした。

## グノーブルの先生

**勝屋**：どの先生も、授業にとっても熱意をお持ちでしたし、英語にとどまらない知識を持っていらっしゃるので解説が楽しいんです。言葉にしづらい部分は曖昧な理解になりがちですが、それを明確にして、スッキリさせてくれたグノはさすがです。  
**三田地**：先生は、授業がすごいし、英語にとどまらない知識もあって、こんな大人になりたいという目標になりました。  
**T**：最初は、先生方に対して「英語の先生だから文系寄りかな？」と思っていました。でも、理系の文章の解説で、理科系のことが好きな僕も知らないことを先生がおっしゃっていて、僕は心から尊敬の念を抱いていました。

## 後輩へのアドバイス

**T**：グノで一番大切なのは復習です。復習を何回もして、音読も何回もして、グノの先生の言ったことを自分の体に染み込ませるのが、英語の力を伸ばすコツです。  
**中村**：受験が終わった今だからこそ、「グノの先生の言っていたことに、真面目に、手を抜かずに取り組むことは大切だ！」と思います。プロフェッショナルである先生方を信用して、先生が指導してくださったことを真摯に受け止め、ストイックに頑張ってください。自分に自信を持ちながら、グノの先生と一緒に前向きにやればきっと結果が出ます。

# 東京大学 理系 Part 2

さかもと へいぞう  
坂本 平蔵さん  
(理I[推薦]・筑波大学附属)

ひでしま こうき  
秀島 光樹さん  
(理I・芝)

まじま よしき  
眞嶋 祐季さん  
(理III・聖光学院)

やの よしちか  
矢野 祥睦さん  
(理I・麻布)

わたなべ ゆうき  
渡邊 侑貴さん  
(理III・世田谷学園)



グノの授業では、毎回添削してもらえます。それから、先生が生徒全員の名前はもちろん、一人ひとりをしっかり把握してくださるといふ大きな特長があります。

グノの英語は、参加型の授業です。受け身ではなく、積極的に先生と関わっていきたいという人にはぴったりだと思います。

秀島 光樹さん (理I・芝)

## 東大志望の動機

**渡邊**：人の命を救える医療に携わる職業として医師を目指すことにしました。研究か臨床か、将来のことはまだはっきりしていませんが、「研究者を目指す人のためのルートも用意されている大学に身を置きたい」と思いました。そのため、最先端の研究に触れながら医学を学べる東大を志望しました。

**坂本**：僕は数学が好きで、数学オリンピックにも出ていました\*。東大数学科に在籍している数学オリンピックの先輩たちを見ていて、「こういう人たちがいる東大は、刺激的で勉強しやすい環境だ」と思い東大数学科を志望しました。

\*第60回 国際数学オリンピック (IMO2019 イギリス大会) で坂本さんは金メダルを獲得されました。

## 入塾のきっかけ

**坂本**：僕は好きなことしか熱中できない性格で、中3の頃は単語を覚えるだけの英語に面白みを感じられず、「このままだと英語を勉強しなくなる」と危機感を抱きました。まずは英語を好きになるきっかけが欲しくて、英語を楽しめる塾を探しました。

## グノーブルの授業

**秀島**：グノの英語は、参加型の授業です。受け身ではなく、積極的に先生と関わっていきたいという人にはぴったりだと思います。受験勉強として英語を勉強するのではなく、人生の途中の通過点として英語力を上げるといふのがグノの授業の印象でした。

**眞嶋**：何よりも授業が楽しいのが特徴です。難しい哲学的な英文を扱う場合も、英語を話している人たちの考え方が伝わってきて、「そういう考え方をする人がいるんだ」と感じ取ることができました。

**渡邊**：グノでは数学も国語もお世話になりました。高1までの数学は演習して、解き終わったらどんどん先生に見てもらえる形式だったので、夢中になって解いているうちに、自然と計算力が身につく、単元の内容も頭に入ってきて定着しました。国語は高1から高3まで本格的に受講しました。一見、なじみにくい古文や難解な現代文、理解しにくい古文単語を、担当の先生は身近な例をたくみに使って説明してくださいました。

## グノーブルの先生

**渡邊**：見てくださるのは学習状況だけではなく、僕のパーソナリティも踏まえて深く相談に乗ってもらえました。とてもありがたかったです。

**矢野**：授業中に先生方の生徒一人ひとりへの視線が伝わってきました。

**眞嶋**：和訳に課題を抱えていると先生に相談したところ、先生は毎回気持ち良く僕の答案の添削をしてくださいました。しかも、きちんと見てくださっていることが伝わる添削で、感謝しかありません。

**秀島**：先生自身が授業を楽しんでいるのも感じていました。自然に教室の空気も明るくなるし、そういう授業に行くのは楽しみでした。

## 後輩へのアドバイス

**坂本**：グノーブル生は英語を読む速さでアドバンテージを持っているはずですので、焦らずに普段どおりに受験に臨めば、必ず良い点数を取れると思います。

**秀島**：グノでは「直前まで過去問を解かなくていいから授業の復習をしっかりしよう」と言われます。その言葉を信じて、受験を意識するのではなく、「ひとつの通過点として人生に役立つ英語を身につけよう」という気持ちで頑張ってください。

# 東京大学 理系 Part 3

おまた ようすけ  
小俣 要介さん  
(理Ⅲ・海城)※慶應義塾

かわぐち いずみ  
川口 泉美さん  
(理Ⅱ・女子学院)

たなべ もえ  
田邊 萌さん  
(理Ⅰ・桜蔭)

はやし しゅんぺい  
林 峻平さん  
(理Ⅱ・海城)※慶應義塾



※東大以外の医学部合格大学

グノの授業がとても楽しかったのは、教室の中の空気をつくっている先生の存在です。先生は高校生の私よりもエネルギーです。びっくりするくらい早口で、身振り手振りもその単語にぴったり合っていて、思わずまねしたくなりました。

田邊 萌さん (理Ⅰ・桜蔭)

## 東大志望の動機

田邊：東大は自分が目指せる一番良い環境ですし、興味のある分野で有名な教授もいらっしゃいます。それに、幅広い分野を学んでから自分の進路を考えられる進振りも魅力でした。

## 入塾のきっかけ

川口：グノは英語を通していろんな知識が学べる授業だったので、それがとても気に入りました。

## グノーブルの授業

川口：特に英文のセレクトがとても好きでした。他塾は過去問の演習ばかりですが、グノは違いました。過去問もあるけれど、科学雑誌の記事や時事ネタとか一般の本からの抜粋も多くて、英語の力がつくだけでなく、教養も深められました。

田邊：グノで扱う英文は知的な刺激にあふれていました。「こんな研究があるのか」とか「この考え方は面白い」と思えるものがたくさんありました。日本語に置き換えてしまうとかえってわかりにくい哲学の話もあったりして、言葉と思考について考える読み物としての面白さを味わえました。

小俣：記憶が新しいうちに解説を聞ける授業内演習は僕にも大きな魅力でした。他塾の英語は「大量の宿題！」というイメージがありますが、グノの宿題は量が多くありません。語源を知りながら単語を覚えるのは、アルファベットの羅列を覚えるのと違って楽しいし、英文の中で覚えていくから作文する時にも使い方がわかります。

林：グノの解説で英単語の成り立ちを聞いたり、先生が黒板や体を使ってそのイメージを表現するのを見たりしていると「なるほど」と腑に落ちました。英単語を日本語に対応させて覚えていくやり方には限界があって、そのやり方を抜け出してから本当に英文が理解できるようになったのだと思います。

## グノーブルの先生

小俣：先生方の授業にはしっかりとしたバックグラウンドがあって、英文の内容を正しく読み取るには学問的にも社会的にも幅広い知識が必要だということを実感させられました。

林：先生は、ただ問題を解いているだけでは気づかないことをきちんと言葉にして僕らに伝えてくださって、それが毎回刺さっていました。先生が教えてくださった英語に向かう姿勢こそが、グノで得た大きな財産でした。

## 面接試験

小俣：東大では、医学部の志望理由と、あとは所属していた化学部についての質問がありました。慶應大の面接は一次試験の成績上位者が対象ですが、2回の面接のどちらも同じことを聞かれたので、形式的に面接をしているという印象を持ちました。

林：慶應大では確かに同じことを聞かれました。趣味の欄で書いた競技かるたやギターの弾き語りのことなど、僕が話しやすいところを聞いてくれて、圧迫感もなかったです。

## 後輩へのアドバイス

田邊：勉強を自分の楽しいものに変えていってください。

川口：「グノを信じたら絶対に大丈夫」というのは今の私の確信です。グノと自分を信じて頑張ってください。

林：グノを信じて音読もしっかり継続しましょう。英語が自分を助けてくれる強い武器になります。



# 国立・私立大学 医学部 Part 1

さかい ゆい  
酒井 結さん  
(千葉大・豊島岡女子学園)

たなか みう  
田中 美羽さん  
(京都大・筑波大学附属)

つの えいた  
津野 瑛太さん  
(筑波大・都立日比谷)

なかやま てつし  
中山 哲志さん  
(千葉大・筑波大学附属)

はくの よしひこ  
伯野 芳彦さん  
(慶應義塾大・世田谷学園)



グノは、受験だけを考えた塾ではなく、進学後、さらには社会人になっていくことまでを考えた塾です。このことを理解した上で、高い志を持って、音読などの一つひとつのことを大切にしてください。目標を高いところに設定して、グノについていけば大丈夫です。

伯野 芳彦さん (慶應義塾大・世田谷学園)

## 医学部志望の動機

**中山:** 小学生の頃、祖父ががんの治療で入院していて、病院を訪れる機会が多くありました。医師についていろいろ調べていくうちに、小児外科医が不足していると知り、「未来ある子どもを治療する医師が不足している現実を変えていきたい」と思い、臨床医として進んでいくことを決めました。

## 入塾のきっかけ

**酒井:** 他塾に通っていましたが、大量の宿題や単語の暗記が負担で、英語が嫌いになりかけていました。理数系で通っていた他塾で、グノと掛け持ちしている人が多かったのと、グノレットの合格体験記を読んで「良さそうな塾だ」と思ったのもあり、高2の秋から英語はグノにしました。

## グノーブルの授業

**中山:** グノの授業は情報量が多いです。情報量の母数自体が大きいから、授業の中で覚えられることも多いし、ちょっとでも残ることがあれば、復習で2割、3割と知識を増やしていけるので効率が良かったです。

**津野:** グノの数学にはふたつの魅力があります。ひとつは授業形態です。予習するのではなく、その場で解いて、先生に解答を見てもらって、「ここができて」「ここができていない」と解説していただけるところです。もうひとつは、カリキュラムが練られていることでした。

**伯野:** 受験だから興味のない問題を解かなくてはならない、ではなく、自分の中で教養が身についていくのを楽しめる授業でした。英語だけでなく物理の冬期講習も受講してみたら楽しくて、そのまま続けることにしました。物理の本質を考える上で大切なこと、教科書には書いていないことも学べました。

**田中:** 古文は高1の1年間、難関国語は高3の季節講習で2回くらい受けました。1年間のグノの学習だけで、問題集も単語帳も使わず、理系なのに古文がアドバンテージになりました。

## グノーブルの先生

**田中:** どの先生も面白い話をしてくれますし、優しく親しみやすかったです。人見知りの私は、教室では固くなってしまいうことがありました。でもグノだと、先生が「自分をちゃんと見ていてくれる」と安心できました。

## 面接試験

**酒井:** 千葉大の面接にはMMI\*というものがあります。「自分が医学生になった立場で、こういう事態が起こったらどう振る舞うか？」を5分×3回行います。面接の最初に「医学的知識は必要ないから、君の考えを言え」と言われたので、知識の有無は気にしなくても大丈夫でした。

**津野:** 防衛医科大は特殊で、一次試験の合格者を対象にした説明会があり、そこで大学の入試対策をしてくれます。自衛官の方たちが来て「防衛医科大ではこういうことが聞かれそうです」と教えてくれるのです。合格のコツは、大学の説明会に行くことと、自衛官による面接練習があるのでそれを活用することです。筑波大は面接点の比率が高いので要注意です。

## 後輩へのアドバイス

**伯野:** グノは、受験だけを考えた塾ではなく、進学後、さらには社会人になっていくことまでを考えた塾です。このことを理解した上で、高い志を持って、音読などの一つひとつのことを大切にしてください。

\* MMI (Multiple Mini-Interview) : 受験生が複数の面接室を移動して、それぞれの部屋にいる面接官と様々なテーマで質疑応答を行う形式。

## 国立・ 私立大学 医学部 Part 2



数学は中2から通い始めました。高3からのセルフチェックシートには、自分の解き方を客観的な視点から自分で評価できるというメリットがありました。

もともと数学は得意科目でしたが、グノのおかげでさらに成績が伸びました。

真木 大地さん (東京医科歯科大・浅野)

### 医学部志望の動機

**飯塚**：医学部を志望したのは、亡くなった祖父を親と一緒に見守った経験があるからです。祖父は認知症を患っていて、本人だけでなく周りの家族にとってもつらい病気だと実感し、高校入学後には医師の道に進もうと志望が固まっていました。

### 入塾のきっかけ

**岡田**：学校で英語の成績が良くなかったので、「基礎から固めたい」と思ったのがきっかけです。宿題が多くなく、学校と両立できるのも魅力でした。古文は高1の1年間で完成できました。

### グノーブルの授業

**加藤**：グノの文章を読んでいると、東大模試の文章が自然と簡単に思えてきます。単に難度が高いだけでなく、文章の内容に興味が持てる題材が使われていて、先生の解説が文章の背景にまで及ぶので、内容を楽しみながら英語の勉強ができるのがグノの英語の大きな特長です。

**真木**：グノの数学は学校よりもセンスに頼らない数学でした。どんどんロジカルに考えられるようになったのが大きかったと思います。

**岡田**：英語と同じで、グノの場合、古文単語も成り立ちから説明してもらえます。先生が直接添削してくださって、「自分のどこが良くなかったのか？」も明確になったので勉強がやりやすく効果も上がりました。

**山東**：グノの小論文では、客観的にニュースを取り上げられることを求められて、それには納得がきました。自分の体験ではなく、周りの世界に目を向ければ書く材料に興味を持って集められるし、周りの世界への関心も増して自分なりの意見も持てるようになりました。

### グノーブルの先生

**山東**：勉強以外でも、進路の悩みなどに親身になってくださるのがグノの先生でした。

### 面接試験

**真木**：医科歯科大は、面接官3人で5分くらいの明るい面接でした。医師を目指す理由や医科歯科大を選んだ理由などのよく聞かれる質問があって、その後高校のことを聞かれました。「部活動で何をやってたか？」とか「部活動で得られたものがあったか？」とかです。

**飯塚**：慶應大では15分くらいの面接を2回受けました。医学部の志望理由などの通り一遍のことよりも、こちらの人となりに興味があって質問している印象がありました。自分が医師に向いているアピールとして「真面目で粘り強く物事に取り組みます」と答えたら、「真面目で損したことはないか？」という挑戦的な質問をされました。さらに難しい質問は、「救えない患者がいた時、あなたはどのような対応をするか？」というのもありました。

**加藤**：東大は2月25日と26日に筆記試験があって、27日に面接でした。医師の志望動機や東大の志望動機の他に、「医師になったら何をしたいか？」や「海外に行ったら何をしたいか？」といった具体的なビジョンについて聞かれました。順天堂大の面接では面接官がフレンドリーである一方、質問はきつい内容でした。

### 後輩へのアドバイス

**湯本**：自分の点の取り方や自分の勉強の仕方を信じてください。僕の場合は、「グノの勉強法が合っているし好きだ」と思っていたので、それを信じて集中しました。あちこち手を出さなかったのが結果として良かったと思っています。